

新学習指導要領を踏まえて

小学校外国語活動

外国語活動では、多くの表現を覚えたり、細かい文法事項を理解したりすることよりも、実際に言語を用いてコミュニケーションを図る体験を通して、それらの大切さに気付かせることが重要です。

中学校英語

- 1 4技能の総合的な育成を目標とする。
- 2 小学校での外国語活動を踏まえた指導をする。
- 3 知識・技能の活用を図る言語活動を充実させる。

「学び合い」と「学びの習慣づくり」の充実のために

「学び合い」

- グループでの学習活動を取り入れて、児童生徒同士での学び合いを深めていくことで、学習のレベルを向上させましょう。

「学びの習慣づくり」

- 授業の中で家庭学習を体験させ、家庭学習で行うべき内容の周知とモチベーションの向上を図りましょう。

小学校では

1 小学校外国語活動について

(1) 下記のような状況に当てはまるかをチェックしてみましょう。

① ティームティーチングのあり方について

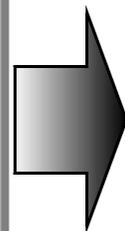
- ア ALTがTIとなり、担任がサポート役となっている。
- イ 担任がTIとなっているが、日本語による説明が多く、ALTの英語が十分に活用されていない。

② 担任一人で授業を行う場合について

- ア 中学校英語の前倒しの活動（スキルを求める活動）となっている。
- イ 覚えさせるための機械的な反復練習となっているために、児童の意欲が引き出せない。
- ウ ALTがいないために、活動のデモンストレーションなどがうまくできない。

③ 校内体制の整備について

- ア 5・6年生担任の多忙化と負担感が増加している。
- イ 校内研修体制が整っていないため、指導法の改善ができない。
- ウ 教材が少なく、指導内容・指導方法のマンネリ化が起きている。



(2) (1)の各項目に対する対処法

① ティームティーチングのあり方について

- ア 担任はALTの活動の説明や進行に進んで加わるようにし、活動を常に二人で作っていくという意識をもつ。
- イ 授業をマネージメントするのは担任であるが、英語を使って活動させるのはALTであるという意識をもって計画を立て、子供にできるだけ多くの生の英語を与えられるように工夫する。

② 担任一人で授業を行う場合について

- ア 小学校外国語活動の目的を再確認するとともに、児童が楽しみながらできる活動を工夫する。
- イ 児童の興味関心に沿った活動内容と方法を考え、活動の中で知らず知らずに反復しているうちに慣れ親しめるようにする。
- ウ 言葉は少なくし、ジェスチャーを多く用いる意識で行うことも大切である。また、ALTや他の先生の協力を得て、ビデオ撮影をしておき、活用する方法も有効である。

③ 校内体制の整備について

- ア 指導計画・教材・指導方法の共有化を図る。
- イ 全教員が役割を持ち、効果的に校内研修が進められるよう計画する。
- ウ 常に新たな教材や指導方法を入手するよう努めることはもちろん、1つの教材を用いて様々な活動ができるように工夫する。

連携

中学校では

2 中学校英語教育について

(1) 下記のような状況に当てはまるかをチェックしてみましょう。

- ① 小学校外国語活動との連携がうまくとれず、早期の英語嫌いを作り出してしまっている。
- ② リスニングやスピーキングを主体とした活動を重視するため、書く活動が十分に行えず、書く力が不十分となっている。
- ③ 生徒自らに思考させ、判断させ、選択させた言葉によって行う活動が充実していない。
- ④ 上位層を更に伸ばすための工夫が不足している。



(2) (1)の各項目に対する対処法

- ① 小学校外国語活動の目的を十分に認識するとともに、校区内の小学校の取組み状況を十分に把握した上で、指導方法を考える。
- ② 計画的に板書指導を行うとともに、授業の中で書かせる時間の確保を工夫する。
- ③ 最終的な表現活動の前に、確実にインプットするための活動を充実させる。
- ④ 上位層の知的的好奇心を伸張させるような教材開発を進め、授業の中で取組ませる工夫をする。

3 教育事務所の取組

- (1) 各学校における外国語活動及び英語授業の状況把握をします。
- (2) 学校訪問等による各学校の取組みに対する授業改善への支援をします。
- (3) リーフレット「小学校外国語活動の充実のために」を用いた指導方法の推進をします。
- (4) 県北教育事務所ホームページにおける「優れた取組み事例」の紹介をします。
- (5) 事務所所有指導事例教材の貸し出しを推進します。
- (6) 「定着確認シート」の取組み事例の紹介と利用の推進をします。